

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心掛けていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

二学期（後期）に行われる模擬試験の前後に、生徒にどのような声掛けや指導をしていますか。

▶判定の良くなかった生徒への声掛け

2年生で判定が良くない生徒に対しては家庭学習や学校での学習を継続することが大切だということを声掛けしています。

3年生には現在の努力の成果が現れるのは2・3か月後であることを伝え、模試の結果に一喜一憂せず、諦めず取り組みを継続するよう指導する。

3年生に対して、「今いい判定が出る大学を第一志望にする必要はない。諦めずに、判定を一つずつ上げていこう」と声掛けしている。

3年生には、できなかったところや弱点をしっかりと認識させ、改善させる一方で、あくまで模試の結果は一つの参考として、それよりも志望校の過去問演習を積みようアドバイスしている。

合格した卒業生の同時期の判定を参考にします。生徒によっては、志望を下げる提案も行いますが、ぎりぎりの時期までD判定やE判定の生徒も多いので3年生でもその方法で頑張らせます。

具体的に教科ごとの問題点を洗い出し、アドバイスをします。最後まで諦めさせないよう、現役生は最後の最後まで伸びると、ただの根性論にならないよう卒業生のデータを使い指導しています。

できるだけクラス全員と面談をし、判定の持つ意味（励ましの意味でこれが確定ではないこと）を話し、最後の最後まで粘り強く取り組むこと、そして「現役生は入試当日まで力が伸びる。力がついていないかはいないかは入試の結果でわかるから、最後までやり抜け」ということを話す。

うまくいかなかったことを気にしている生徒には、本番までに修正すればよい、模試で間違えて良かったと声を掛け、気にしていない生徒には、模試で結果が出ないのに本番でうまくいくわけがないだろうと話す。

1・2年次ではさほど言わない。たとえ模試結果が良くても勉強をさぼらないよう声を掛ける。3年次には自分の立ち位置を考えることを伝える。夏に頑張った結果がこれなら進路変更も考えるよう厳しく指導し、浪人覚悟などいろいろな状況が考えられるのでそれも合わせて話をする。

▶苦手科目の学習が進まない生徒への声掛け

模試までを一つの区切りとして、それまでにそれぞれにテーマを持たせて取り組みせ、結果が出やすいように工夫する。うまく進んでいない生徒に対しては、低学年のうちは具体的な課題やテーマを与え、それをこなすようにさせる。3年生には、何が良くないのかをなるべく本人に考えさせ、自分で対策を考えさせるようにする。

昨年度の先輩の合格体験記などを軸に、例えば、まず得意な教科から始めて意欲を高めるとか、苦手な教科は友達と一緒に勉強するといった工夫や知恵を伝え、苦手科目への取り組みのパターンを変えることを意識させてみる。

1年次の模擬試験の点数や合否判定は気にしないように指導していた。しかし、文理選択や志望大学・学部など興味や志望が変わることもあるので苦手科目もできるだけ諦めずに最低限の勉強はするように指導していた。

苦手科目の学習については、模試の結果をよく分析して苦手分野を明確にするとともに、時間や教材はどのようなか、今の学習法についての再点検をさせる。3年生についても基本的には同じだが、受験までの残り時間が少ないため、志望校の変更、科目負担減などについても少し慎重に話をしている。

合格最低点と本人の模試の点数の差から、その差を埋めるにはどの教科で何点取ればいいのかを考えさせ、そのためには苦手科目で大幅に点を上げなければならないと認識させるようにしている。